

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年12月 日

協議会名: 蒲郡市地域公共交通会議
評価対象事業名: 地域内フィーダー系統

Table with 6 columns: ①補助対象事業者等, ②事業概要, ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況, ④事業実施の適切性, ⑤目標・効果達成状況, ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む). Rows include details for various bus routes and companies like 豊鉄タクシー株式会社.

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年12月 日

協議会名:	蒲郡市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統
----------	------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>第五次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通計画を令和3年6月に策定した。当該計画の将来像等は、平成28年3月に策定した前地域公共交通網形成計画を踏襲し、交通ネットワーク網の維持・拡充を進めている。</p> <p>計画の中で位置付ける取り組みとして、「鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地の解消」、「関係者間の連携強化による事業推進」を基本的な方針として掲げ、地域内フィーダー系統に関する計画の目標としては、「住民のニーズをふまえた公共交通ネットワーク網の維持拡充」「交通空白地解消のために導入した支線バスの適正な運行管理」等を設定している。</p> <p>これら地域交通計画で定めた将来像・基本的な方針・計画の目標(施策事業)を通して、地域公共確保維持改善事業の支援を受けて、「交通空白地解消のための支線バス(フィーダー)」の運行を進める。</p>
-----------------------------	---

中部様式

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価 概要（全体）

蒲郡市地域公共交通会議 （蒲郡市）

平成25年3月1日設置

令和3年6月 蒲郡市地域公共交通計画策定
（計画期間：令和3年6月～令和8年3月）

令和3年6月25日 フィーダー系統 確保維持計画策定等
（令和3年12月22日 変更計画）

令和 年 月 日 令和4年度評価結果送付

■ 公共交通ネットワークイメージ

蒲郡市全体の交通網

- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。
- ・交通空白問題地区において、地元主導で地域協議会が設置された箇所は、支線バスの検討・路線設置を行う。
- ・①形原⇒②東部⇒③西部地区の順に展開。
- ・令和3年1月：④三谷地区で運行開始。
- ・令和3年4月：⑤大塚地区で運行開始。
- ・現在、⑥西浦地区で新事業検討中。

■ 新地域公共交通計画の将来像及び期間

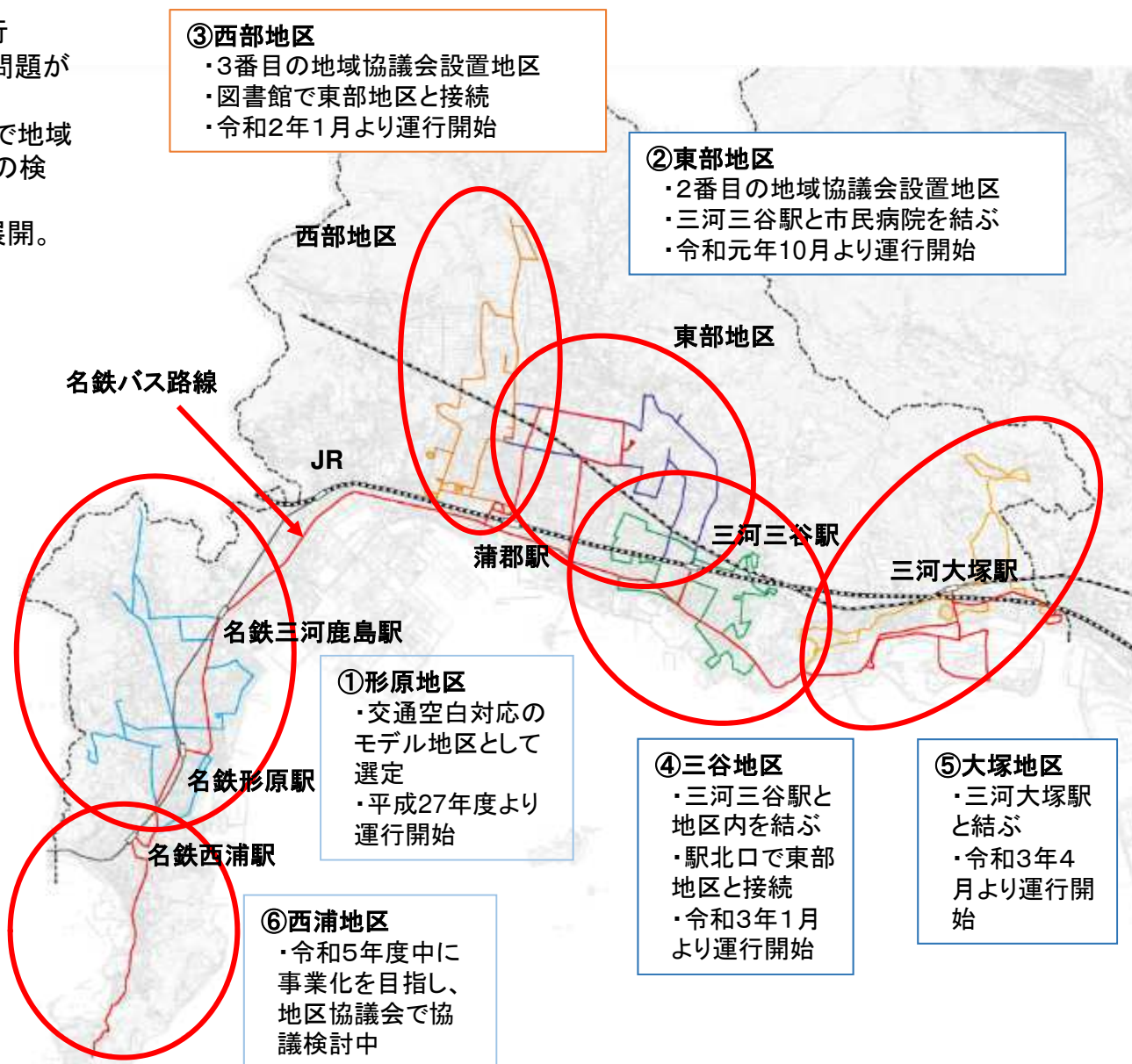
● 将来像

- ・子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系が構築されている。
- ・地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系が構築されている。

- 計画期間：令和3年度～7年度（5カ年）

■ 公共交通の基本的な方針

- 鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保（交通空白地解消等）
- 関係者間の連携強化による事業推進（利用促進活動等）



■ 目標を達成するために行う事業

※地区支線バス＝フィーダー補助路線(交通空白)

計画の主な目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線（名鉄西尾線・蒲郡線）げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成（形原・東部・西部・三谷・大塚・西浦地区） 等
関係者間の連携強化	西尾市及び名鉄との間に名鉄西尾・蒲郡線に関する連携合意書を締結、東三河全体で公共交通利用促進イベントを実施 等
持続性ある公共交通の確保	小学生等乗り方教室、バス乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化（GTFS-JP）対応 等

■ 実施してきた主な取組

🚆 名鉄西尾・蒲郡線
(市民まるごと赤い電車応援団等)

1) 利用促進活動

- ・ 第7・8回ぶらりんウォーク開催（R4/6/18・R4/11/26）参加者数：6月 約300人・11月 約120人
- ・ ミュースカイ貸切列車企画開催（R4/9）2往復×2日、応募定員588人（抽選実施）
- ・ 西浦駅舎ありがとうイベント開催（R4/8/27）来場者数約700人
- ・ にしがま線絵画コンクール開催（R4/8-9）応募281点、
入選（列車内展示）80点



🚌 路線バス

1) P R 活動

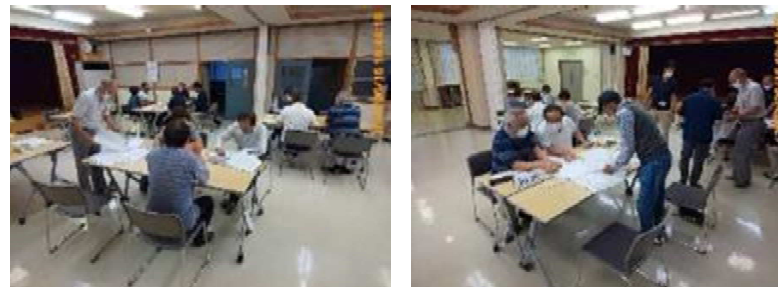
- ・ 公共交通マップの作成・配布（R4/3）施設、老人クラブ等約8,500冊配布
- ・ 蒲郡まつりでのPR・乗車体験（R4/7）
- ・ バス整理券ラリー謎解きゲーム開催（R4/7-9）50円バス利用者4,806人、ゲーム応募者124人



支線バス（新規実施）

- 1) 事業拡大：週4便への変更（形原地区）
 - ・ 令和4年4月より金曜日の運行開始
 - ・ ルート、ダイヤは変更なし。
 - ・ 週4日運行化
 - ・ 他地区の路線も拡大する見通し。
- 2) 支線バスの運行対応（西浦地区）
 - ・ 西浦地区公共交通協議会（R4/5/12設立）
令和5年度中の運行開始に向けて協議中
 - ・ ルート、ダイヤ案を設計し、路線バス事業者との協議も実施中。
- 3) 形原地区利用促進事業：累計3万人達成
 - ・ 令和4年2月10日累計利用者数3万人達成。
 - ・ 地区協議会による達成イベントの実施。
- 4) 大塚公民館での出前講座の実施
 - ・ 令和3年12月3日 大塚地区公民館にて
 - ・ 出前講座：乗り方教室・料金等（20名余り）
- 5) 形原地区：ぬりえ大会の開催
 - ・ 令和3年11月8日 形原中学校にて
 - ・ コミバスとのふれあいの機会としてぬりえ大会を開催（形原3保育園：55名）

西浦地区協議会での協議風景（第2回R4/6/16）



形原地区：3万人達成イベント（感謝状授与R4/2/24）



大塚地区：出前講座（R3/12/3）



形原地区：ぬりえ大会（R3/11/8）



🚌 支線バス（新規実施：続き）

6) 特別感謝状受賞（三谷・大塚地区）

- 令和3年11月5日 特別感謝状を授与
- 三谷、大塚地区協議会に対し、住民主導事業の取組、公共交通の充実の貢献に対して。



7) 西部公民館・寿楽荘での出前講座の実施

- 令和3年10月27日 西部地区公民館にて（20名程度）
- 令和3年10月22日 大塚地区・寿楽荘にて（10名）
- 出前講座：乗り方教室・料金等



🚌 タクシー制度（継続実施）

- 高齢者タクシー運賃助成事業
 - 令和4年度分のチケット配布
 - R3年度実績：利用枚数55,562枚
助成額14,408千円
- 福祉タクシー運賃助成事業

氏名	[]		住所	[]	（〒[]）
三谷市	[]		〒[]	[]	
前住所	[]		〒[]	[]	
有効期間	年4月1日～		年3月31日		
※未利用は、利用者が記入してください。					
利用月日	利用月	利用日	利用回数	利用金額	助成額
利用目的	[]				
利用種別	[]				
利用時間	[]				
利用回数	[]				
利用金額	[]				
助成額	[]				
※チケット発行元：三谷市					

🚌 支線バス（継続実施）

● 地区支線バスのGTFS-JP（オープンデータ化）

8:27 ○ 蒲都市役所
〒443-8601 愛知県蒲都市旭町1-7-1

8:28 ● 市役所
みかんの丘ぐるりバス 左回り
図書館
12分（3駅）
愛知県蒲都市

8:40 ○ 図書館
とがみぐるりバス 市民病院
6分（3駅）
愛知県蒲都市

8:51 ● 市民病院
8:51 ○ 蒲都市市民病院
〒443-8501 愛知県蒲都市平田町向田1-1

料金：200円

切符などの情報
愛知県蒲都市 - 0533-66-1156

ルートおよびその他の情報は参考情報としてご利用ください。これらの情報は、道路合や工事、天候等の影響により実際の状況とは異なる場合があります。稼働時は実際の標識や案内板等に従ってください。

形原・東部・西部・三谷・大塚地区について運行開始に合わせ対応

● 車体・バス停への広告



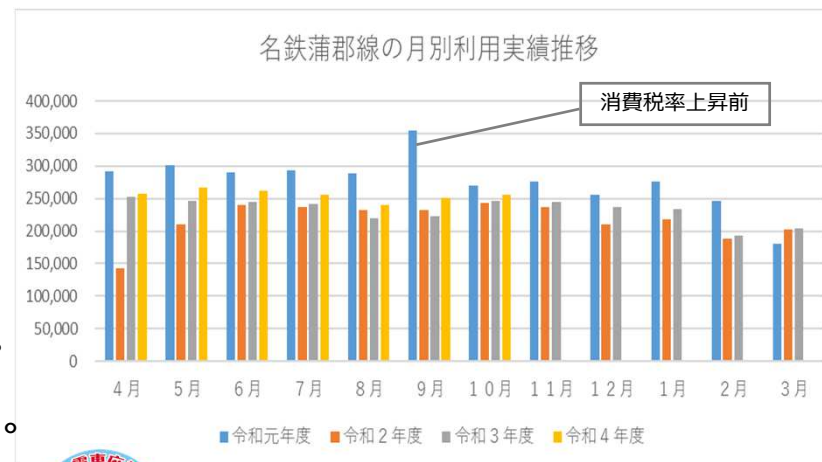
■市の交通ネットワーク全体の評価【鉄道】

○ 将来目標：2025年時点での利用者数 = 155万人/年

○ 実績：R2年度 = 1,211千人
 R3年度 = 1,253千人 **目標未達成**

○ 考察

- ・他モードに比べ回復するが、利用者が少ない状況が続く。リモート・在宅勤務やオンラインショップの活用等ニューノーマルの定着の影響が考えられる。
- ・市民主体応援団（市民まるごと赤い電車応援団）等による利用促進活動するも元通り回復の兆しなし。



◀ 応援団ロゴマーク

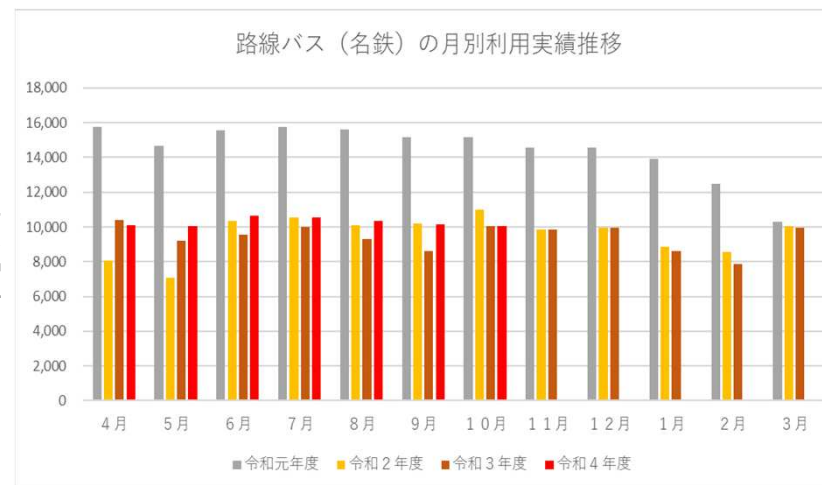
■市の交通ネットワーク全体の評価【路線バス】

○ 将来目標：2025年時点での総利用者数 = 16万人/年

○ 実績：R2年度 = 114,609人
 R3年度 = 113,321人 **目標未達成**

○ 考察

- ・コロナの影響で大きく利用者が減少、さらにR3年度は前年度を下回る厳しい状況。R3年度は緊急事態宣言や蔓延防止措置がとられる期間が長く、そのことが影響したと考えられる。また、現行高齢利用者の減少により全体として減少傾向が続くと思われる。
- ・直近ではコロナ禍による前年の大幅減少から、回復せず、ほぼ横ばいの状態。減便状態を継続。



■ ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」

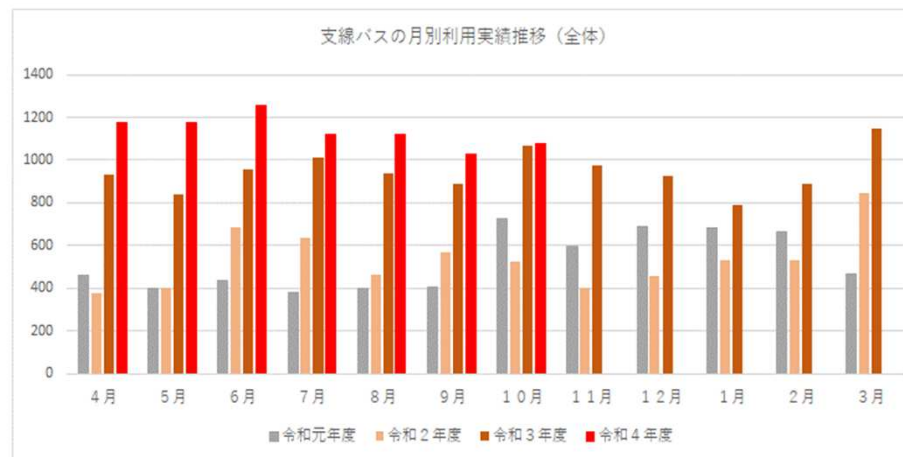
路線	年間利用者数			収支率		
	令和4年度 (目標)	令和4年度 (R3/10~R4/9実績)	達成状況	将来目標 (2025年時点)	令和3年度 (R3/4~R4/3実績)	達成状況
形原地区支線バス	3,600人	5,267人	達成	10%以上	12.1%	達成
東部地区支線バス	1,600人	1,650人	達成	10%以上	5.6%	未達成
西部地区支線バス	900人	1,535人	達成	10%以上	6.3%	未達成
三谷地区支線バス	1,700人	2,590人	達成	10%以上	6.7%	未達成
大塚地区支線バス	900人	1,620人	達成	10%以上	6.7%	未達成

○ 考察（利用者数）

- ・ R4年度は全ての地区で昨年度から増加し、目標設定に対しても、全ての地区で達成した。
- ・ R4年度は、コロナ禍の目標設定なので達成できたものの、路線ごとに達成度に差がある。東部地区は、市民病院利用が多い路線で通院や見舞い制限の影響があると思われる。他地区においては、乗り方教室等周知の効果が出ている。

○ 考察（収支率）

- ・ 形原は地区の継続した利用促進の結果達成。
- ・ 未達成地区について、コロナ禍前後の運行開始もあり、今後さらなる利用拡大が必要。三谷は、運行開始時の回数券割引販売（R2年度 350枚）による反動、東部も敬老事業による回数券の配布（R2年度 109枚）による反動が考えられる。



フィーダー系統全体の利用動向

<自己評価から得られた課題>

- ①鉄道 = 直近の利用者はやや回復するも戻りきらない。利用促進、誘客対応の継続が必要。
- ②路線バス = 利用者の減少傾向から横ばいに。サービス維持について協議が必要。
- ③フィーダー = 地区別の実績比較から利用者数の乖離あり。周知・利用促進の継続、利用拡大のため週4日運行化、乗り継ぎ利用などによる新規利用者の獲得が必要。
= R3導入路線が定着。交通網全体を強化すべく、新たな空白地対策も進める。



<今後の取り組み>

- ①鉄道の対応
 - ・【通年】市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。
 - ・【令和5年度中】事業者・観光部局と連携したMaasの推進。
 - ②路線バスの対応
 - ・【通年】事業者と協議を行い、利用者減の食い止めと現行のサービス水準の維持を目指す。
 - ・【令和5年度中】鉄道・支線バスとの乗り継ぎ促進事業検討。
 - ③フィーダー系統の対応
 - ・【通年】5地区でのモニタリング・PDCAの実施による適正運行。
 - ・【令和5年度中】複数のフィーダー系統の事業化をふまえ相互利用を促進する施策（1日乗車券の導入等）の検討、認知度を高めるPRイベント・乗車体験会等の実施
 - ・【令和5年度中】西浦地区での新規事業化を進める。塩津地区等での勉強会の実施。
- ★令和3年6月に蒲郡市地域公共交通計画を策定。計画に基づく事業推進。

直近の二次評価結果 (令和4年3月)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>＜令和4年3月10日付通知＞</p> <p>○評価できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支線バスの各地区の協議会で各地区の状況に応じた利用促進・改善事業の検討していること、既設のコミュニティバスでカバーできていない地区等でも勉強会を開催するなど地域主導で検討を行い、法定協議会で吸い上げ、検討・確認を行っていることを評価します。 ・各地区協議会と法定協議会が連携して新たな支線バスの運行（大塚地区、三谷地区）や交通空白地へのルート延伸による交通空白地対策を進めたことを評価します。 ・東三河地域の関係者が連携した利用促進策が継続して実施されたことが確認できました。 <p>○期待する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日乗車券の導入等により、コミュニティバスだけでなく市内を運行するバスへの乗り継ぎの利便性向上、利用者増加につながる取組に期待します。 ・停留所ごとの乗降者数の分析、評価による議論や乗車体験を促す利用促進策の実施等の取組みに期待します。 ・名鉄西尾・蒲郡線について、引き続き名鉄や関係自治体と連携し、観光需要と通勤需要、双方に対応した取組を進めるよう期待します。 ・支線バスについて、地域が積極的に利用促進の取組を行うことを期待します。 	<p>○1日乗車券導入等によるバス利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車バス共通のフリーパス販売企画を名鉄、名鉄バスと協働して新たに実施。また、イベント等で乗車体験を伴う利用促進、PRを継続して実施。 ・1日乗車券については、現路線の維持が課題となり、バスと競合しうる取り組みに対して協議未実施。 <p>○支線バスの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支線バスの各地区の協議会を開催し、停留所別利用実績を共有し、利用促進・事業改善の検討を地域主導で行っている。三谷地区では、停留所の見直しが行われ利用者増加につながった。 ・地区ごとに公民館での会合や高齢者施設での出前講座、実車を見ながらの乗り方講座などを実施。 ・西浦地区で地域協議組織を設立し支線バスの新規導入協議を開始。 ・西部地区支線バスにて、ルートの延伸及び停留所見直しを検討協議、塩津地区北部の交通空白地カバーを予定。 <p>○名鉄西尾・蒲郡線の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策協議会、活性化協議会を通して2市及び名鉄と連携して取組み推進。貸切列車企画や車内への絵画作品の展示など新たな事業を展開し、話題性あるPR事業を実施。 	<p>■全体：市交通会議でのPDCA</p> <p>左記の事業評価を、当該資料を用いて市交通会議で確認する。また、新交通計画で盛り込んだPDCAの仕組みを通して計画的にPDCAを行う。</p> <p>○路線バスの利用改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者増加につながるよう1日乗車券の導入等乗り継ぎ促進施策について協議検討を進める。 ・利用者数の回復状況を見ながら、現在の減便の状態から便数をコロナ前に戻していく検討を進めたい。 <p>○支線バスの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会で支線バス事業のモニタリングを継続実施し、利用促進活動や1日乗車券の導入等相互利用方策の検討を進める。 <p>○名鉄西尾・蒲郡線の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者との連携事業を継続し、新規イベントの創出など沿線の魅力向上、利用促進を進める。 <p>○交通網の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西浦地区での新規導入を進め、塩津地区等残る交通空白地での取組拡大を進める。あわせて、乗用タクシー活用についての検討を進める。

前々回の二次評価結果 (令和3年3月) 調査事業・計画策定	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>＜令和3年3月1日付通知＞</p> <p>○評価できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に向け、市民、観光部局と連携した活動を実施されたことが確認できました。 ・形原地区をモデルに、東部地区、西部地区で地域主導による支線バスの運行を開始したことを評価します。 ・新型コロナウイルスの影響を受けた公共交通事業者への支援、公共交通を利用した謎解きゲームの開催など、東三河地域が一体となった取組について評価します。 ・次期計画策定に向けた調査事業が計画どおり実施されたことが確認できました。 <p>○期待する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に期待します。また、隣接する西尾市との連携強化についてもお願いします。 ・三谷地区（R3.1～）、大塚地区（R3.4～）で運行開始を予定している支線バスの確実な事業化及び利用促進を期待します。 ・東部地区、西部地区、三谷地区、大塚地区の支線バスについては、目標値の再検討を頂くとともに、各支線バスの利用状況の分析をお願いします。 ・調査事業については、今年度の調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待します。 	<p>○新地域公共交通計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年6月に蒲郡市地域公共交通計画を策定した。 ・旧交通網形成計画・新交通計画で掲載している下記のような事業を適切に遂行している。 <p>○名鉄西尾・蒲郡線の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対策協議会、活性化協議会を通して2市連携して対策を協議・推進。 ・「赤い電車に乗って歩こう！ぶらりんウォーク（R3/6/27日程変更）」などの利用促進活動を継続して実施。 <p>○支線バスの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支線バスの各地区の協議会を開催し、停留所別利用実績を共有し、利用促進・事業改善の検討を地域主導で行っている。当該検討を法定協議会にて確認・連携し、事業運営を進める。 <p>○交通空白地対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既設のコミュニティバスでカバーできていない塩津地区等には、勉強会を開催し、地域のニーズと地区協議会の設置意向を確認し、カバーエリアの拡大を進めている。 <p>○バス利用促進対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ（R3/4版）を作成・配布し、利用PRを実施。乗り方教室等地道な周知活動を継続。 	<p>■全体：市交通会議でのPDCA</p> <p>左記の事業評価を、当該資料を用いて市交通会議で確認する。また、新交通計画で盛り込んだPDCAの仕組みを通して計画的にPDCAを行う。</p> <p>○名鉄西尾・蒲郡線の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民まるごと赤い電車応援団や観光部局と連携し、名鉄を活用したイベント創出などの利用促進活動を継続して実施していく。 <p>○路線バスの利用改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響が大きい路線バス対応のため、観光まちづくりビジョンで位置づけられる「観光客向け交通手段の整備」など、観光部局と協力した回遊性・周遊性拡大による利用改善策を取り組んでいく。 <p>○支線バスの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区協議会・連携協議会等で支線バス事業のモニタリングを実施し、利用促進活動や1日乗車券の導入等相互利用方策の検討を進める。 <p>○交通空白地対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩津地区などを候補に、さらなるカバーエリアの拡大を進める。

<PDCAの進め方>

- ・地域公共交通計画の進行管理は、計画期間の5カ年を通してPDCAを行う。
- ・各年度は、地域公共交通会議において各年度事業の計画を設定し、事業の進捗状況と計画の数値目標等(利用者数・カバー率)を通して、計画の進捗を評価する。

<協議会の開催状況>

- ・年間3回のペースで開催。
- ・交通計画を策定、年度事業の協議、事業進捗を評価・確認を進めている。



回数（実施日）	進捗管理に関する協議事項	実施内容
33回 対面 (R3/11/19)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金の自己評価 ・ 形原地区の運行日拡大協議 ・ 1日乗車券の導入協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中部様式等の自己評価の協議。 ・ フィーダー事業の事業改善協議。 1日乗車券は継続協議扱い。
34回 対面 (R4/3/24)	<ul style="list-style-type: none"> ・ R4事業計画、予算案の協議 ・ 行動指針の一部見直し 	R4年度の事業計画の協議。指針で規定する評価指標（収支率等）の見直し協議。
35回 対面 (R4/6/13)	<ul style="list-style-type: none"> ・ R3交通計画の進捗及び評価 ・ R5生活交通確保維持改善事業計画 	R3年度の決算報告にあわせ、交通計画の進捗状況の評価を実施。R5補助事業計画の協議。